

名前 竹中均

専門分野 社会学

会議での役割 自閉症に優しい社会：
「共生と治療の調和の模索」
研究プロジェクトメンバー



A班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

A班のご提言のための図の特徴は、中心に「本人」と「家族」が位置づけられていることです。この場合、本人と家族の関係については図示されていないわけですが、これがなかなか微妙な緊張関係をはらんでおり、本人からの視線と家族からの視線は異なるように思えます。みなさんがどのようなお考えをお持ちなのか、注目されます。



B班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

B班のご提言の図では、「自閉症者本人」が中心に位置づけられ、他方、「家庭」が「学校」や「地域」などと並列的な位置づけをされており、相互に矢印で結ばれています。「家庭」の位置づけの大きさに注目されます。その一方で、現実の「家庭」の方には、無力感や受け身にならざるをえない限界感もあるのではないのでしょうか。「家庭」が積極的な行為者に育っていければよいのですが。



C班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

C班のご提言の図の特徴は、「公民館」という具体的な社会制度と場が、大きな位置を占めている点です。私自身、公民館との関わりが薄かったので、公民館に今後、どのような潜在的可能性があるのか、注目されます。その視点は、もしかすると、金沢という地域独自のものなのかもしれません。この点から、金沢ならではの提言が可能でしょうか。



D班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

D班のご提言では、「就労支援」を「居場所を見つけるために」「生きる意味を見つけるために」と位置づけられている点が特徴的です。図全体も、この視点を中軸にして描かれているのが印象的です。「なぜ働くのか」という問いは、ある意味では素朴ですが、別な意味では現代的な問いだと思います。現在の若者全般にとっても、無縁ではない課題ではないでしょうか。



E班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

E班のご提言の図では、「市民」という領域が大きく幅広い位置づけを与えられている印象を受けました。図の表現法だけに限って言えば、「企業」の位置が相対的に控えめになっているようです。「市民」という言葉は広範囲ですが、それだけに柔軟性があります。対して、「企業」は明確な言葉ですが、考えてみますと、企業と言っても多種多様です。どのような企業が重要な意味を担うことになるのでしょうか。



F班の提言へのコメント・意見



各班のご提言を拝見しているうちに、そこに自閉症者とその世界についてのみなさんのお考えとともに、私たちの社会一般についてのお考え、いわば社会観が図形的に表現されていると思いました。その側面からコメントさせていただきます。

F班のご提言では、図示の面で、社会制度別や場所別の表現法ではなく、機能別の表現法が採用されている印象を受けました。その上で、「就労・自立」が課題として設定されていますが、就労と自立の関係についてのお考えが注目されます。就労と自立がイコールなのかどうか、大きな問題だと思います。「適切な職種」とは何かという問いには、複雑な要素が絡み合っているように思われます。